

# 会報

第41号(2017/10/10)

広島県福山市木之庄町 4-3-14

Tel&Fax:084-917-5937

Mail:info@crcc-fukuyama.org



Community Renaissance  
Research Center

## 今後の予定



## 仁伍音楽祭

11月19日(日)10時〜13時30頃

場所:仁伍広場周辺

当日のステージでは地域の絆の利用者さんが当NPOで練習した合唱を披露されます。また、NPO図書室の解放や、本の読み聞かせも予定しています。ぜひお越し下さい。

・出店内容:おでん販売

子ども向けゲーム

リサイクルバザー

本の読み聞かせ

・お願い:前日夕方からのおでん仕込み、当日のお手伝いをお願い出来る方、ご連絡頂ければ幸いです。



福山が生んだ柔道家・中村和裕と学ぶ

## 上手な転び方入門

日程:第一回 11月11日(土)13時〜

第二回 11月15日(水)13時〜

第三回 11月18日(土)13時〜

以上三回連続講座

場所:福山市武道館

参加費:正会員1200円(全3回分)

非会員1500円(全3回分)

※3日分の保険料を含む

講師:福山大学助教 中村和裕さん

主対象:シニアの方

定員:15名程度(先着順)

内容:このところ高齢者が寝たきりにならないために「転倒予防」の重要性が盛んに言われています。  
この講座は、これまでとは発想を変えて柔道の受け身を体験することで転び方を学び、出来るだけ大きなケガにならないですませたい、と考えたものです。3日間の短期集中講座で反復練習をし、転び方自体に覚えさせてみませんか。

※申込締切日11月6日(月)



「ケアの社会学」を読む会

10月12日(木)16時30〜

場所:ルネッサンス研究所

参加費:300円

読む本:上野千鶴子著「ケアの社会学」

内容:79ページから

シエントロジー研究会

10月20日(金)14時〜

場所:ルネッサンス研究所

参加費:300円

内容:『ミニニティヘルスのある社会へ』を読みます。

## 活動報告



### 今号の内容

- なぜ音楽に魅せられるのか?」概略
- 理事・中島さんの本の紹介
- コラム〜種子法の廃止〜
- 編集後記

※内容は以下に記載

## 「なぜ音楽に魅せられるのか？」 サイエンスカフェin緑町 第2弾

防災ブックレット販売のご縁から始まった、啓文社ブックストアプラス緑町店と当NPOとのコラボ講座「サイエンスカフェin緑町」の第2弾を実施しました。

9月16日午後1時半より、福山市立大学名誉教授の村山ひろみさんに「なぜ音楽に魅せられるのか？」と体で音楽を感じる「の」テーマで話していただきました。会場は啓文社店内「わかば塾」の教室で、プロジェクトや録音、キーボードを使用したの、とても分かり易いお話でした。

講座内容は①音楽は楽譜の内容を演奏者の裁量で演奏する「再現芸術」である。②音楽と空間との関係について受講者が体を動かしながら感じる。③音楽への感情移入と「思想の表現」。

最後に「自分の好きな曲には感情移入ができません。そして音楽を奏でる演奏家は常に表現しながら演奏しています。皆さんも音楽を聴く時には、ぜひ頭の中に絵を描くようにイメージをふくらませながら聴いてみて下さい。」というメッセージで締めくくられました。

以下は講座の概要です。

### 1. 音楽のもつ曖昧さと自由度

楽譜には作曲者によって、音の高低、強弱、長短、テンポ、曲想などが書かれており、演奏者は楽譜に書かれていない作曲者の意図を汲み取って解釈しながら演奏する。したがって、音楽は「再現芸術」である。

例えば音階が上昇する時はだんだん強く演奏、曲の最後はだんだんゆっくりになるのが一般的であることなどを実際に演奏しながら説明。バロック時代の作曲家はメロディを簡単に書き、あとは演奏者にゆだねられていたため、曖昧さの多い楽譜であった。古典派時代以降は作曲家と演奏家がそれぞれ独立してきたため、次第に詳細に記入された楽譜になっていった。



譜例1：ベートーヴェン、ピアノソナタ Op.57 (熱情) 第1楽章

例えばベートーヴェンの時代になると上図のように、上から二段目の主旋律に加えて装飾までもが記入されている。

それでも奏者の自由度があることを、2人のピアノリストによるモーツァルト作曲「フルコ行進曲」の演奏を聞き比べて実感した。

### 2. 音楽の何に魅せられるのか

#### (1) 音楽を聴いてのイメージ

童謡「ちようちよ」や「ぞうさん」を音の長さや音色を変えて演奏するとイメージが変わる。例えば、ゆっくりだと大きいちようちよ一匹、速いと小さいちようちよの群れのイメージに。

#### (2) 音楽と空間

受講者全員が立って輪になり、「セタ」の曲に合わせて隣の人と手をたたいて拍子を取ると、隣人との距離でテンポも変化。輪を大きく空間を広くするとテンポゆっくりになり、狭くすると速くなる。

#### (3) 音楽への感情移入

音階が上がると気持ちも高揚することを、映画音楽を聴きながらイメージする。  
星に願いを「…広い空間をイメージ。  
マイ・フェア・レディ「…ロンドンの下町のコックニ  
ー訛りを克服した、主人公の高揚感を表現。  
風と共に去りぬ「…オクターブで上がる音階が、故郷の存在が心のよりどころとなっている主人公の希望を強く訴える。

3.「のすばらしき世界」

(1)曲について

ポップ・シールとジョージ・デヴィット・ワイズがベトナム戦争を嘆き、平和な世界を願った曲である。ベトナム戦争を描いた1987年の映画「グッドモーニング・ベトナム」のBGMに起用された。

(2)歌手について

歌手はアフリカ系アメリカ人のジャズミュージシャンであるルイ・アームストロング(1901-1971)。ニューオーリンズのアフリカ系アメリカ人が多く住む比較的貧しい居住区に生まれ育つ。ピストルを発砲して少年院に送られ、そこで金管楽器のホルネットの手ほどきをうける。釈放後、キャバレーでミュージシャンとしてデビュー。その後アルバムに転向し、数々のヒット曲を生んだ。

つい先頃までアメリカでは人種差別が法的に認められており、白人と同じホテルへ泊まれない、劇場の入り口も別々など様々な差別を受けた。こうした差別を感じながら演奏活動を行うとともに、彼は公民権運動にもかかわるようになる。



(3)音楽の背景を知ることの意味

「この素晴らしい世界」を3度聴いた。1度目は曲のタイトルを聴いたのみで。2度目は、作詞・作曲者や歌手の背景を知った上で。そして3度目は真っ青な空の写真、赤ちゃんの泣き顔、お祭りではない場面をプロジェクターで映しながら。

そうすると、1度目、2度目、3度目と曲に抱く印象が変化していくことを実感した。「この素晴らしい世界」は、あからさまな反戦を歌詞にしていなくても、日常の中に平和があるという想いが秘められていた。

講座のあとは、店内の「BOOK MEETS COFFEE」に移動し、先生を囲んでコーヒータムを楽しみました。受講者からは次のような感想が出ていました。

・ピアノを習っている子どもの演奏は不完全だと思っていたが、子どもは自分なりの感情を込めて演奏しているのが寛容の心で見守らなければならぬと自分を戒めた。

・看護している姉が歌集を手から離さず、歌っている時の心から幸せそうな様子。

・学生時代に保育士の資格を取るために受けた音楽理論の授業を懐かしんで受講を決めた。

地域で行った音楽活動の紹介や、オーケストラを久しぶりに聴いて感動したお話など。

・今後は映画音楽やミュージカルといった、ジャンル「このものもあつたら」といった声も。

・一時間余りのコーヒータム。まだまだ話し足りない思いを持ちながら解散しました。



理事・中島さんの本の紹介

当「コミュニティルネッサンス研究所」の理事であり、特定非営利活動法人「地域の絆」の代表理事である中島康晴さんが、地域包括ケアにかかわる自らの実践を踏まえて、この夏に批評社から二冊の本を出版しました。正式なタイトルは「地域包括ケアから社会変革への道程・理論編」(批評社、2017年6月)と「地域包括ケアから社会変革への道程・実践編」(批評社、2017年7月)です。

この本は、中島さんが「地域福祉センター仁佐」(2006年開設)に始まる各地での地域福祉センターを立ち上げ、運営する活動と経験をふまえて書かれたものです。中島さんが展開する幅広い地域福祉活動が、どのようなものであり、それは何をめざしているのかということが、わかりやすく、明解に書かれています。

人は、住み慣れた地域社会の中で、人間らしく暮らし、生きていく権利がある。これをどう実現し、地域社会はどうサポートするのか。中島さんが実践してきた「地域の絆」での幅広い地域福祉活動はこうした考えのもとに実践され、そして実を結んでいます。中島さんは、自らの10年にわたるこうした実践活動を「地域包括ケア」と名付けて総括し、それこそが新しい社会変革の手がかりになると説いています。「フーシヤル・ワーク」から「フーシヤル・アクション」へ、そしてそれこそが「社会変革」の道なのだという中島さんの主張は明確であり、今日のような「経済成長」至上主義の政治社会にたいする痛烈な批判であります。これまでに「弱者」として差別されてきた「高齢者」や「女性」や「子ども」の人権を確立していく理論的な手がかりとして、本書は、とても参考になると思われれます。一読してみんなで議論しましょう。

(加納三千子)

## コラム・種子法の廃止



「2018年4月1日より種子法廃止」。皆さん、これが今年5月の国会で決まっていたことをご存じでしたか。

「種子法」は1952年に「主要農産物(稲、大麦、裸麦、小麦及び大豆)の優良な種子の生産及び普及を促進するためにほ場審査その他の措置」を行う事を目的として作られました。

農業規制改革推進会議ワーキンググループが2016年10月6日に「国は国家戦略・知的所有権戦略として、民間活力を最大限に活用した開発・供給体制を構築するために、地方公共団体のシステムで民間の品種開発意欲を疎外している主要農産物種子法は廃止する」と提起し、閣議決定。ほとんどマスコミに取り上げられないまま国会を通過しました。

この法の廃止により種子事業に多国籍企業の参入が懸念され、種子の供給が不安定になります。JAは、この法の実施により日本の種子価格は5倍から10倍に高騰し、日本農業がピンチに陥ることを危惧しています。

## 編集後記



私もなぜ音楽に魅せられるのか?を受講しました。「この素晴らしき世界」は聞いた事はありませんでしたが、良い曲だな」といった印象しかありませんでした。しかし、曲の書かれた経緯や歴史的背景、そして人種差別について学んだ後に再度聞くと、歌詞がより美しく心に訴えかけてくるようになり、確かな変化を感じました。全く同じ曲であるのに印象が変わるという不思議な体験でした。

クラシック音楽を聴くのが好きな私は時々オーケストラを聴きに行くのですが、いつも演目の曲を予習してからコンサートに行くようにしています。曲を覚えて行くと、次に流れるメロディを頭の中で予測しながら聴き、それをオーケストラがトレースしてくれるのが心地良いのです。聞いた事のない音楽は苦痛に感じる事も。「という講師の言葉にハッとしました。初めて出会う音楽に苦痛を感じないために、知らず知らずのうちに予習をしていた事に気付かされました。

講習で感じた事は人それぞれかと思いますが、音楽の持つ魅力を新しい知識で更に深めることができたように思います。

(兼)